

※英語名称はおって決定する予定です。

2021年6月

1. きょうそうさんかくたんけんねつについて

きょうそうさんかくたんけんねつ（以下「KSTN」と記載します）は、OECDの Education2030 プロジェクトの理念を共有する地域の様々な関係者が、未来の望ましい教育の共創に向けて、教育における研究と実践の深化や連携強化のために協働する新しいネットワークです。その成果を発信することにより、未来における個人と社会の Well-being を改善していくことを目指しています。

KSTN は、東日本大震災から 10 年という節目の年に開催された OECD 福島ワークショップ「あれから。これから。」を企画・運営した学生・生徒さんたちの発想から、2021 年に新たに創設されました。

きょうそうさんかくたんけんねつという名称には、様々な想いが込められており、このネットワークの主要な原則や価値観、ミッションを示唆しています。

- きょうそうとは、共創する、協奏する。
- さんかくとは、参画する、三角する。（以下の7（3）を参照ください）
- たんけんとは、探究×研究する、探検する。

KSTN の運営は、ステアリング・コミッティ（運営委員会）によって実施されています。ステアリング・コミッティは、対話と合意を通して、意思決定をするための KSTN 内部の組織です。

2. 背景

KSTN は、OECD の Education2030 プロジェクトからのサポートを受けて活動をしています。これは、日本（東京学芸大学）から OECD への任意拠出金を含む、日本との 2 国間の共同研究契約（2021 年 4 月～2024 年 3 月）があるためです。この共同研究契約では、KSTN で予定されている活動として以下のことが記載されています。

- 自律分散型で連携している地域エコシステム・ユニットの様々な関係者の交流・協働の促進・調整
- 地域エコシステム・ユニットに参加する研究者からなる大学コンソーシアムを形成
- 日本の研究テーマと OECD Education2030 プロジェクトのフェーズ 2（以下の4（6）を参照ください）との協働や連携の促進
- OECD Education2030 プロジェクトの政策的な優先順位（例：ティーチング・コンパスの共創）に沿った、OECD に関連する政策と実践の共有
- 大学コンソーシアムの研究が、日本の政策研究への貢献を効果的に果たせるよう、大学コンソーシアムの研究者と文部科学省職員との定期的な意見交換会の開催

- 地域エコシステム・ユニットに対して、カリキュラム改革に関するコレクティブ・インパクトの測定・把握の依頼
- OECD Education2030 プロジェクトの研究成果（例：新しい公表物）を広く発信し、かつ、海外や国内からの新しい科学的研究成果を広く発信するための定期的なワークショップの開催

この共同研究契約の目標は、地域エコシステム・ユニットによるコレクティブ・インパクトの測定・把握を通して、学校現場における実践の実態や研究・政策ニーズを踏まえた、子どものエージェンシーや学校の Well-being など学力以外の、教育の効果を測定・把握する新たな指標の可能性を模索することです。

3. KSTN の地域エコシステム・ユニットの目標

KSTN では、開かれたネットワークとして、地域の様々な方々と一緒に未来の教育を共創していくことを目指し、教育における自治体や企業・団体の取組み、研究、学校における実践などを相互に関連したものとして、その取組み・研究・実践を推進するため、様々な形態による、「地域エコシステム・ユニット」を広く募集します。KSTN の目的に賛同して参画いただける皆さまに、地域エコシステム・ユニットを構成していただき、KSTN の活動にぜひ参画いただければと思います。

KSTN の運営は、ステアリング・コミッティによって実施されています。地域エコシステム・ユニットに選定されると、その代表者2名（1名は大人、1名は学生・生徒）の方には、ステアリング・コミッティに参画いただくことになります。また、地域エコシステム・ユニットに選定されると、そのユニットに参加する研究者の方々には、研究への貢献に向けて、地域を超えたコンソーシアムにご参加いただくことが可能になります。

4. 地域エコシステム・ユニットに申請するための適格基準

地域エコシステム・ユニットに申請するためには、以下に掲げる基準をすべて満たしている必要があります。

- (1) 地域エコシステム・ユニットの目標が、OECD の Education2030 プロジェクトの目標や理念に一致している必要があります。（以下の4（3）を参照ください）
- (2) 参加する地域エコシステム・ユニットは、次の3つのグループの関係者で構成されている必要があります。
 - ①学校関係者＝学生・生徒、教師、学校の管理職、その他の学校関係者（学生・生徒の参加が必ず必要）
 - ②研究者
 - ③上記以外の関係者＝例：教育委員会など自治体関係者、財団、NGO や NPO、その他の団体関係者

これらの各グループ（①～③）それぞれから2名以上の方々に地域エコシステム・ユニットを構成していただく必要があります。

(3) 申請者が価値観とミッションを共有していることを確実なものとするために、地域エコシステム・ユニットの代表者2名（1名は大人、1名は学生・生徒）は、それぞれが以下の①又は②の条件を満たしている必要があります。

① [2021年のOECD福島ワークショップ](#)または [OECDのEducation 2030プロジェクト](#)のどちらかに貢献した（単なる参加は「貢献」とは認められないのでご注意ください）。

② 所属している組織（例：学校）の目標が、[OECDのラーニング・コンパス](#)のキー・コンセプトと何らかの形で明示的に連携している

(4) 地域エコシステム・ユニットの代表者2名は、今後、KSTNのステアリング・コミッティに参画する意志を持っている必要があります。

(5) 多様性を内包するために、地域エコシステム・ユニットの研究・活動には、自国以外の国の学校との国際協働が含まれている必要があります。

(6) 地域エコシステム・ユニットの主な研究・活動内容は、OECDのEducation2030プロジェクトのフェーズ2のテーマ別ワーキンググループの5つのテーマのうちの1つと合致している必要があります。

① TWG1：教師とティーチングの未来のビジョン

② TWG2：カリキュラム改革と教員養成・教員研修との連携

③ TWG3：カリキュラム改革と指導方法・学習評価との連携

④ TWG4：Education2030に関する実験的な学校のハブ

⑤ TWG5：ラーニング・コンパスの深堀りと進化

(7) 共有されている目標に向けた協働的な取り組みを確保するために、地域エコシステム・ユニットのすべての参加者は、OECD日本共同研究の目標を十分に理解し、KSTNの研究会やOECDのEducation2030プロジェクトの会議を通じて自分たちの学校の実践事例や研究成果を共有する用意があることが必要です。

(8) 地域エコシステム・ユニットは、その活動について文書にまとめる必要があり、可能であれば、地域エコシステム内の協働によるコレクティブ・インパクトを評価する必要があります。

(9) 地域エコシステム・ユニットは、自ら研究と実践を推進するとともに、その活動を内部や外部の関係者と調整・連絡することができるよう、自主的かつ自律分散したユニットとしての能力と体制が必要です。

5. 地域エコシステム・ユニットの活動期間と選定予定ユニット数

(1) 活動期間

地域エコシステム・ユニットの選定決定日～2024年3月31日

(2) 選定予定ユニット数

5～7ユニット程度を予定

（ただし、選定予定ユニット数は、現時点での予定であり、申請の状況も踏まえ、最終的には、選定委員会が決定します。）

6. 申請方法等

(1) 申請方法

地域エコシステム・ユニットとしての選定を希望される場合は、「地域エコシステム・ユニット応募申請書」を、申請期限までに、メールで以下の宛先にご提出ください。

(2) 提出先

きょうそうさんかくたんけんねつと事務局（東京学芸大学内）

kyososankaku@gmail.com

雨宮・長谷川 宛

(3) 申請書類

地域エコシステム・ユニット応募申請書（別添様式参照）

申請書類は、英語でご提出いただきますようお願いいたします。ただし、代表者が日本人の場合は、英語に加えて、同じ内容を日本語でもご提出いただきますようお願いいたします。

(4) 申請期限

2021年7月18日 18:00（ヨーロッパ中央時間）＝2021年7月19日 01:00（日本時間）まで

7. 選定プロセスと選定基準

選定委員会

KSTN の研究総括と OECD の職員は、公平性と透明性の原則に基づき、選定委員会のメンバーを決定します。

選定委員会のメンバーは、利益相反やその可能性を避けるため、選定時において公募に申請する地域エコシステム・ユニットのメンバーではありません。

意思決定プロセスの中立性を確保するため、選定委員会のメンバーは非公表とします。

選定基準と選定プロセス

選定委員会は、上記4. に記載している地域エコシステム・ユニットの適格基準をすべて満たしている申請ユニットの中から、候補を選びます。

選定委員会の各メンバーは、提出された応募申請書を、以下の選定基準のそれぞれについて、1点～4点の4段階で評価を行います。最終的な選定は、すべての選定基準の点数を全体として合計し、合計点数が高い申請者が選定委員会のメンバーによって選定されます。

(1) 目標設定の観点（地域エコシステムの研究と実践のために設定された目標との関連性）

(2) きょうそう（共創と協奏）の観点（現状にとらわれず、より良い未来に向けて、協奏的な取り組みによりどのような新たな知を共創することが想定されているか）

(3) さんかく（参画と三角）の観点（参加者の多様性の程度 例：異なるタイプの学生・生徒の包摂、分野を超えた協働、学際的なアプローチ、官民協働パートナーシップ等）

(4) たんけん（探究×研究と探検）の観点（地域エコシステムとしてどのような探究や研究に取り組むか、どのようなコレクティブ・インパクトを目指すか）

(5) 国際性の観点（地域エコシステム・ユニットが学生・生徒や教師にとって「有意義な」国際協働をどのようにデザインするか。なお、国際協働は、それ自体が目的ではなく、生徒エージェンシーとウェル・ビーイングをサポートする手段として用いられるべきである点に留意してください。)

(6) 資金確保の観点（自主的かつ自律分散した地域エコシステムとして、どのようにして活動に参加するための運営資金を確保するか。なお、この活動は、一般的な学校の予算でまかなうことや現物での貢献によってサポートすることができることに留意してください、その場合はその旨を申請書に記載してください。)

(7) 運営・管理体制の観点（最終的な意思決定を誰が行い、どのように地域エコシステムの運営を行うか。)

選定終了後、すべての申請者に選定又は不選定の結果をメールで個別にお知らせします。

8. 今後予定されるスケジュール

- (1) 公募開始：2021年6月18日
- (2) 公募期間：1か月
- (3) 申請期限：2021年7月18日 18:00（ヨーロッパ中央時間）
＝7月19日 01:00（日本時間）
- (4) 選定：2021年7月下旬
- (5) 選定結果の公表：2021年7月下旬以降